



ほり ぐち じゅん や
堀 口 順 也



こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

スマートフォン決済のポイント還元事業を

問 新型コロナウイルスの感染拡大で売り上げが落ち込んだ飲食店や小売店などを支援するとともに、スピード感を持って、市民の消費の喚起につなげられるスマートフォン決済のポイント還元事業の実施の考えは。



今後も情報収集や研究を引き続き行う

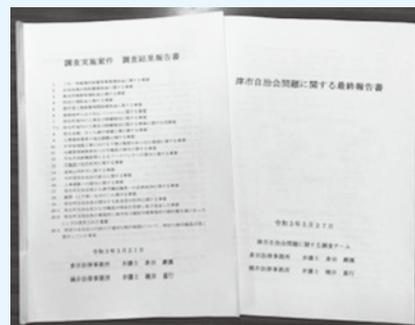
答 スマートフォン決済によるポイント還元事業は、紙の商品券発行に係る作成、事前申請受付販売事業者の換金面などのメリットがある一方で、スマートフォンの使用が前提となるなどの課題がある。

キャッシュレス決済は時代の潮流でもあるが、民間調査会社の調査（令和3年1月）では、実際のQRコード決済利用者は33.3%にとどまり、事業を実施した自治体から紙の商品券の方がなじみ深く安心であるとの声があったとも聞いている。

今後も情報収集や研究を引き続き行い、津市の地域経済状況を踏まえて、事業者支援に取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- 津市自治会問題の経過について
- 津市自治会問題に係る背景について
- 調査から判明した問題点と課題について
- 職員の職務専念義務違反について
- 職員のコンプライアンス上の問題点について
- 内部統制室について など



▲津市自治会問題に関する最終報告書と調査結果報告書



さか い だ しげる
坂井田 茂



いっ しん かい
一 津 会

就学前日本語教室「つむぎ」に関して問う

問 現在津市には外国籍の子どもが小学校で401人、中学校で186人在籍している。初期日本語指導教室「きずな」が9年前に開設され、さらに翌年、学校へ出向く「移動きずな」を開き、着実に実績を重ねていると聞く。これに加え、就学前の5歳児と保護者を対象とした新たな日本語教室「つむぎ」を開設したが、その目的と実施状況、成果と課題について問う。

外国につながる子どもの不就学をなくしたい

答 就学前日本語教室「つむぎ」は、次年度、就学年齢となる外国につながる子どもを対象に、小学校入学初期に使われる日本語の指導や学校生活への適応指導を行うことで、小学校生活への早期の適応を目的とし、令和2年度は敬和地域を対象に計8回開室し、19人が通室した。

子どもたちは、回を重ねるごとに日本語で話す抵抗感がなくなり、また、保護者からは、母国の小学校との違いや不安を話すことで、日本の学校に就学させる不安が軽減できたと聞く。

今後、開室場所や指導者の育成等の課題を解決し、外国につながる子どもの不就学をなくすことにつなげたいと考える。

●その他の質疑・質問●

- 新型コロナワクチン接種の運用に関して
 - 公正な接種方針について
 - 「先行接種」について
 - 市民に安心感を与える接種予約の方法について
 - 接種運営上の事故について
- 津なぎさまち駐車場の管理・運営に関して
 - 「放置車両」の現状と運営上の問題点について など



▲小学校入学後も安心して教育を受けることができる道筋を